

JANPIA 2021年度事後評価研修

みらいファンド沖縄
2019年度通常枠での事後評価の取
り組みと成果

2024.8.9

公益財団法人 みらいファンド沖縄
代表理事 小阪亘



組織概要

名称



公益財団法人
みらいファンド沖縄

英名

Mirai Fund Okinawa Inc. Foundation

設立年月日

2010年4月23日

公益認定日

2011年4月1日

事業年度

毎年4月1日～翌年3月31日

代表理事

小阪 亘

設立経緯

財団設立供出金300万円を
93名の市民から寄付を頂いて
設立

住所

〒903-0824
沖縄県那覇市首里池端町34 2Fタイフーンfm内

加盟団体

一般社団法人全国コミュニティ財団協会
一般社団法人全国レガシーギフト協会

みらいファンド沖縄は、市民のみなさまからの寄付により、設立した「市民立」の財団です。

沖縄の公益活動団体を意志ある人々によって支え合う——みらいファンド沖縄の設立趣意に共感し、設立時拠出金をご寄付くださいましたみなさまに、感謝申し上げます。



設立時拠出金に寄付くださったみなさま
(五十音順・敬称略)

秋葉 武 新井 裕子 新垣 八重子 (有) 新垣ちんすこう菓子店
有井 安仁 東濱 克紀 認定NPO法人アンビシャス
石原 達也 今津 新之助 岩田 直子 (株) エフエム那覇
(株) エフエム 21 遠藤 聰志 大城 逸子 大城 喜江子
大城 幸代 大城 成信 大城 武久 大見謝 恒章
NPO 沖縄シニアの会 川北 秀人 菊之露酒造(株) 金城 嘉志
金城 和光 (株) クレイ沖縄 古我知 浩 小阪 亘 小橋川繁
小松 かおり 吳屋 貴司 佐久間 愛弓 下地 美香
(特活) 首里まちづくり研究会 佐脇 広平 新開 育恵
新星出版(株) 杉浦 幹男 関口 宏聰
税理士法人添石綜合会計事務所 添石 幸伸
(特活) ソーシャル・デザイン・ファンド 平良 斗星 平良 恵津子
地域情報エージェント(株) 知花 茂 知念 金徳
(特活) ちゅらしまフォトミュージアム 當間 愛晃 戸田 幸典
渡真利 雅男 仲村 一真 中村 智 (特活) 日中文化交流センター
比嘉 司 平井 雅 福岡 智子 前田 比呂也 真喜屋 光子
(特活) まちなか研究所わくわく 松本 哲治 宮里 大八
宮道 喜一 宮島 さおり 米野 史健 山城 岩夫 山城 司
与儀 隆一 與古田 清順 (特活) ライフサポートてだこ
(有) ルーツ 若尾 貴広 若尾 美希子 渡邊 真寿美
匿名にて寄付くださった方々

(合計 93 名、300 万円)

事業スキーム

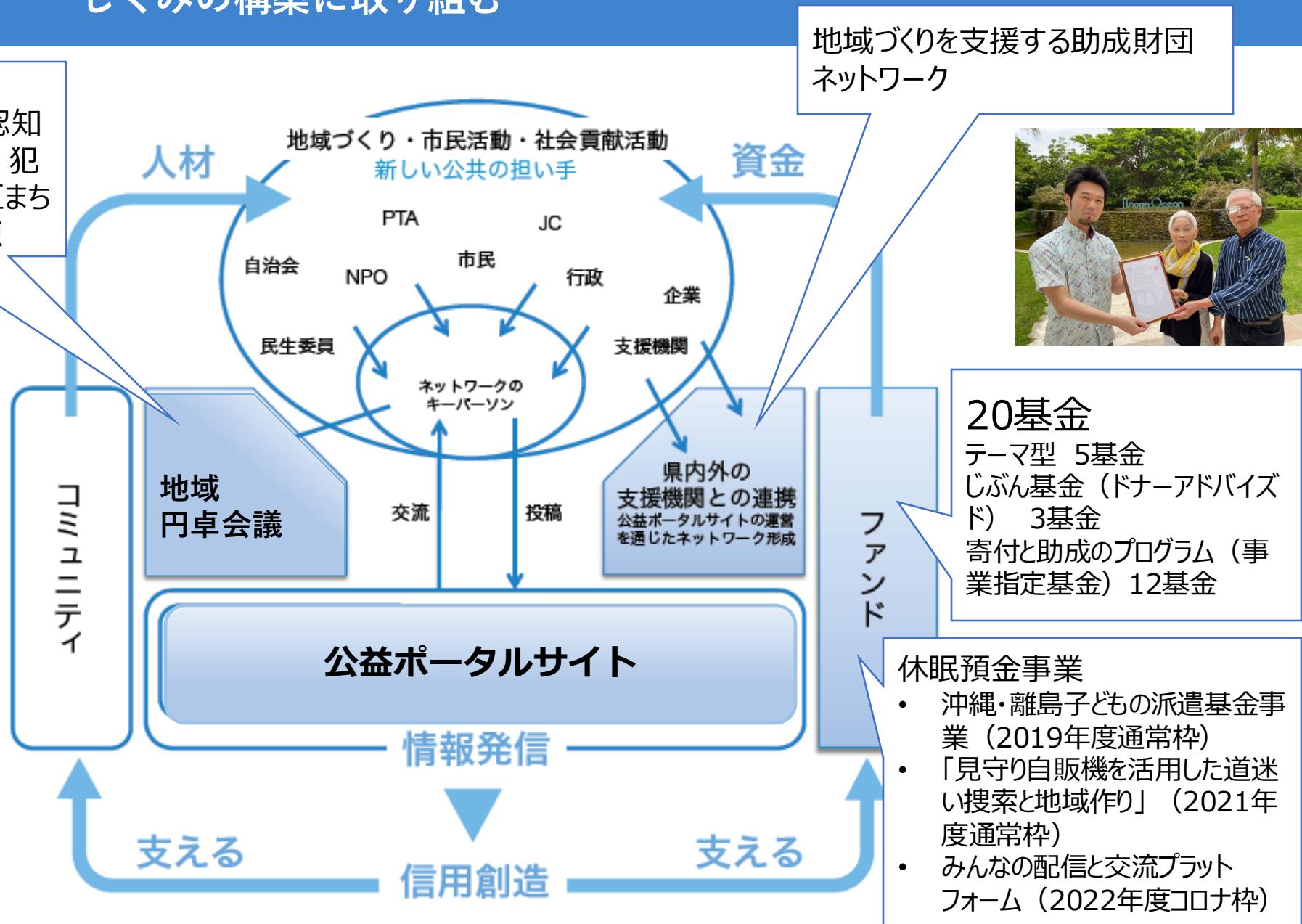
社会の共感を育て、資金の循環を促す
しくみの構築に取り組む

16件
子どもの部活派遣、認知症まちづくり、沖縄戦、犯罪被害者、小学校区まちづくり協議会、水資源

オンライン円卓会議
1/30 部活動派遣費問題を考える地域円卓会議



沖縄子どもの未来県民会議 地域円卓会議
in沖縄県立図書館 2019.2.12



「沖縄・離島の子どもも派遣基金」事業



2020年度～2022年度の
3年間は『休眠預金活用事
業』の助成金を活用し、
アクション&リサーチ

<事業目的>

生まれた場所・住む場所によって
子ども達の体験に格差を生まない社会づくり

<社会課題>

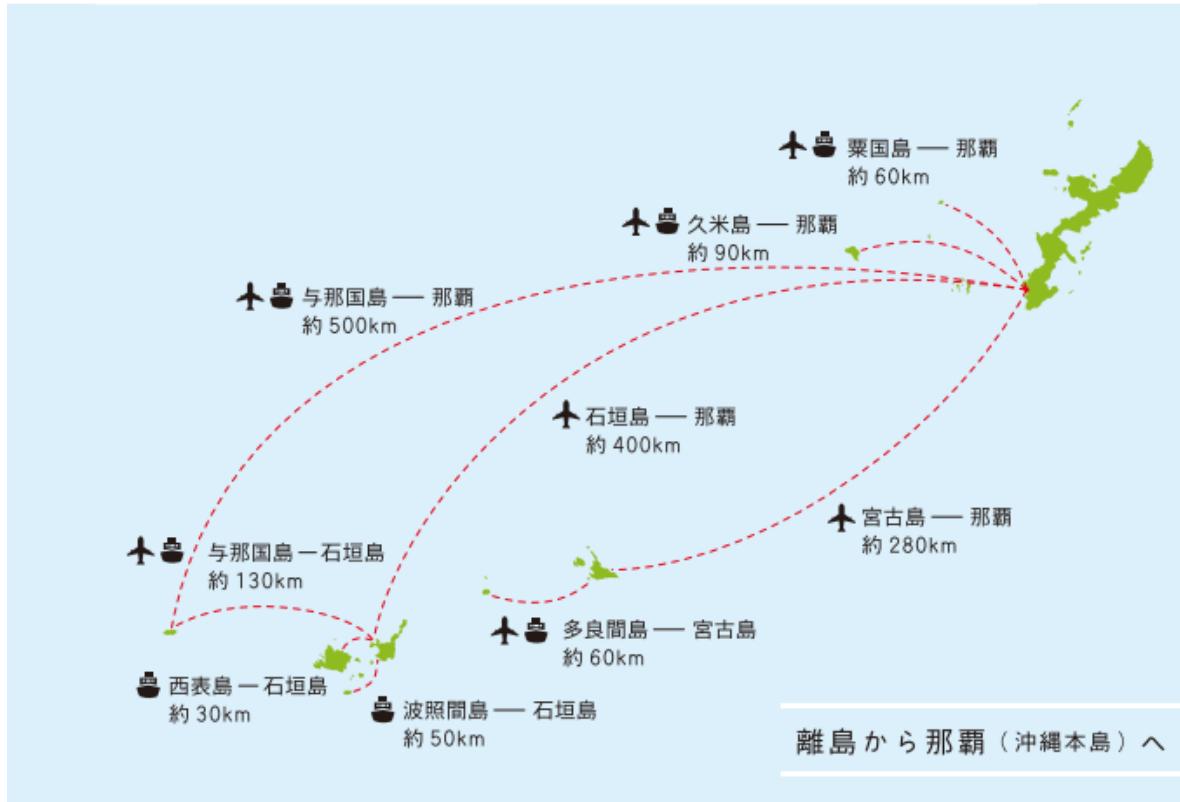
多くの「体験」の機会の中でも、**部活動の派遣旅費の負担の課題**は、離島県の不利性を本人や家族が自己責任で担保しているため、**子どもの学びの機会に不平等が生じている**

<目指す状態>

住む場所により子どもの移動の自由が制限され
ているということが、人権が守られていない不平等
な状態だと地域全体が認識し、**県民全体で支える仕
組みの構築**

今回対象とした派遣について

■ 各離島→本島への派遣（県大会参加など）

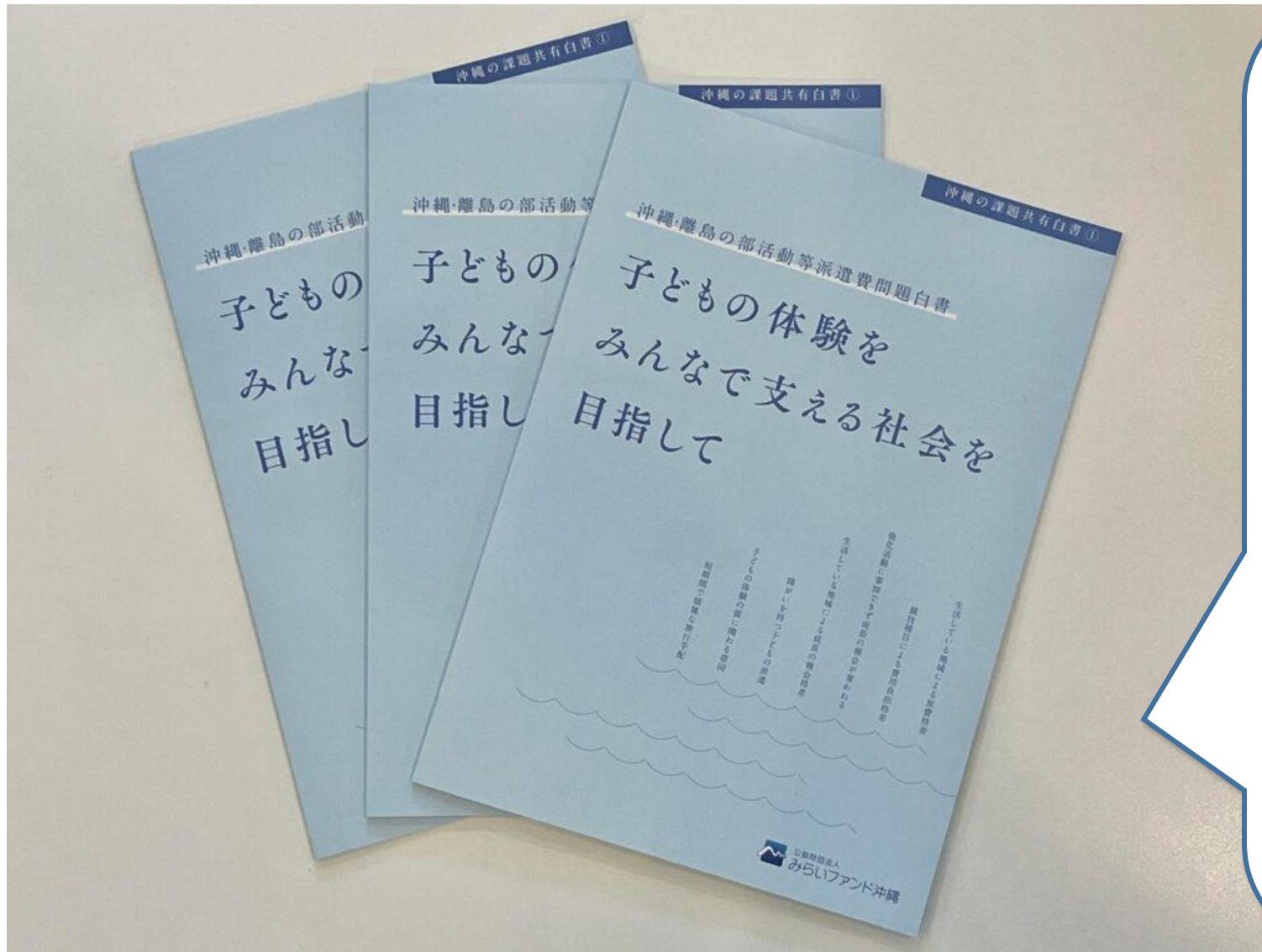


■ 沖縄→日本各地への派遣（全国大会参加など）





「沖縄・離島の部活動等派遣費問題白書」を発行



2019年度「沖縄・離島子どもの派遣基金事業」の取り組みを白書としてまとめ発信

ねらい

- ・ 地域課題の解決に取り組むには多くのステークホルダー（学校、部活、監督、保護者、先生など）が参画する必要があり、広く共有するため
- ・ 自己評価 資金分配団体も実行団体とともに課題解決に取り組む
- ・ 事業の終わりが課題への取り組むが終わるのではない
- ・ 休眠事業で取り組んでいることが課題の全てではない

地域のコミュニティ財団としての姿勢を表した

波及効果と今後の展開（事業終了直後）

● 休眠事業後の波及効果

- ・ 行政の派遣補助メニューに帯同者も追加された（豊見城体協）
- ・ 離島のチームが本島移動の為に利用できるリムジンバスの購入（サッカー協会）
- ・ 派遣費の資金造成祭りの開催、JC離島サミットのテーマに（石垣、ハブクリエイト）
- ・ 沖縄県文化振興会の自主事業で、高校生の本島への派遣がある際、帯同の方の資金援助の議論の際に、白書を根拠に帯同者への支援にもつながった

● 今後の仕組み化への展開

- ・ 個別大会基金のブラッシュアップ
 - ・ 紿付型奨学金型の基金の議論
 - ・ 沖縄県に対する離島施策の充実と、ふるさと納税活用への提言
 - ・ 子どもの権利保障を目的とした運動への参画
 - ・ 派遣ワンストップサービス（仮称）の実行可能性調査
- など

白書を使っての事後の成果

● 休眠事業後の波及効果

- 島の子ども応援まつり（派遣費の資金造成祭り）2年連続開催（石垣、ハブクリエイト）



市に要望、子ども応援拡大委

白書を使っての事後の成果 2

● 休眠事業後の行政施策への波及効果

- 石垣市では派遣費補助の予算が2.7倍（2024年3月）
- 沖縄県ガバメントクラウドファンディング開始（2024年4月）



▲沖縄県ガバメントクラウドファンディングサイト
2024年4月

事後評価報告の取り組みスケジュール (2022年度)

● 5月頃 事後評価の方法として白書作成を決定

- 事後評価の様式が自由書式であって、ラッキーと思った
- 白書を事後評価報告書としてよいかJANPIA - POに確認
 - 読み手として学校の先生、部活のコーチ、保護者に設定
 - 読み物として、記載事項を限定（後々問題も）

● 7~8 12月 事業実施

- 実行団体は夏、冬の部活派遣へ集中（コロナ禍でなかなか数値が取れなかった）
- 白書抜き刷りを作成し周知、広報

● 8~9月 実行団体の事後評価・伴走円卓会議

- 「障がい者スポーツ」「帯同者問題」「資金問題」など事業実施で取りこぼした内容について調査し、円卓会議で議論した

● 11月 評価の円卓会議

- 「沖縄・離島の子ども派遣基金事業の取り組みを振り返り、今後の基金のあり方を考える」

● 2月 シンポジウム 白書お披露目

- 個別大会基金のブラッシュアップ
- 給付型奨学金型の基金の議論



▲2022年11月12日
評価円卓会議



◀2023年2月18日
白書お披露目シンポジウム

助成団体（実行団体）の役割

競技団体

一般社団法人沖縄県サッカー協会

島国沖縄の子どもたちに
夢を諦めさせない



地域団体

特定非営利活動法人豊見城市体育協会

豊見城市子ども派遣基金事業

特定非営利
活動法人
豊見城市体育協会
Tomigusuku Athletic Association

▼3団体を通じた本事業の旅費負担実績
(2020年度～2022年度現在)

離島

株式会社ハブクリエイト

八重山・離島の子ども派遣基金事業



アクションリサーチ：補助を出
しながら量的データと論点を導
き出す

- 子ども、指導者、帯同者の派遣 延べ196件、延べ1,561人をサポート
- 本事業を通じた旅費負担総額：36,429,408円
(内訳)
 - 休眠預金による旅費負担総額：25,852,735円
 - 基金を活用した旅費負担総額：10,576,673円

<旅費負担先> ※一部抜粋

▼サッカー協会

※サッカー競技をしている小学生・中学生・高校生、指導者に個人負担額の半額（上限あり）

- ・第100回全国高校サッカー選手権 沖縄県大会（石垣→沖縄本島）
- ・第100回全国高校サッカー選手権大会（沖縄本島→神奈川）
- ・2021年度KYFA第26回九州U-15女子サッカー選手権大会（沖縄本島→長崎）
- ・第1回全国特別支援学校フットサル大会沖縄県大会（宮古→本島）



▼ハブクリエイト

※石垣、竹富町の生徒、指導者を対象に自己負担額の半額（上限あり）

- ・第39回九州中学バレー選抜沖縄県大会（石垣→沖縄本島）
- ・第45回全国高等学校総合文化祭（石垣→和歌山）
- ・第46回全関西ミニバスケットボール交歓大会（石垣→沖縄本島）
- ・第13回美ら島学童軟式野球交流大会（石垣、竹富→沖縄本島）



▼豊見城市体育協会

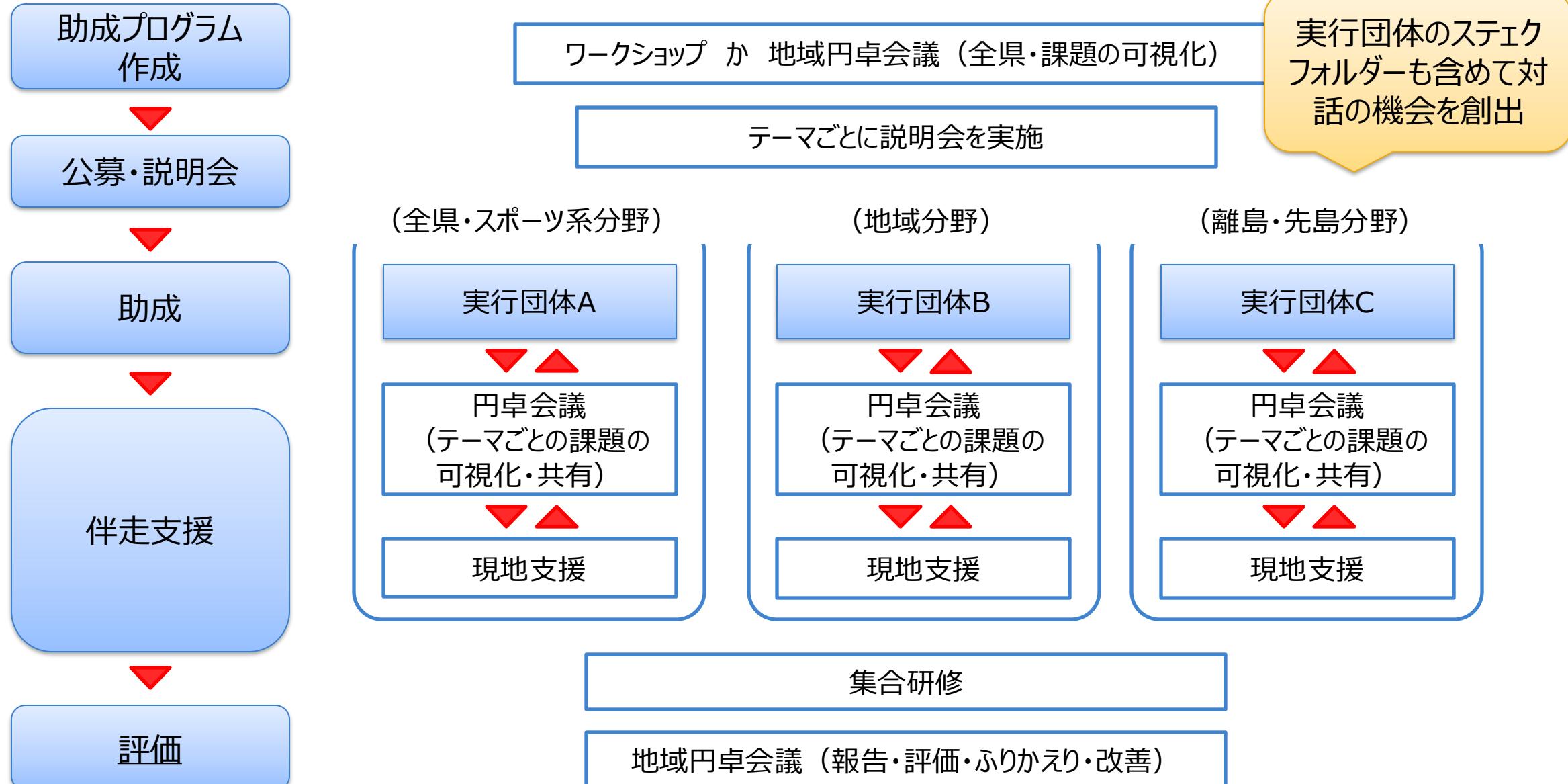
※豊見城市在住の小・中学生、帶同者に航空運賃・宿泊料・移動費・運搬費の8割負担（行政補助の対象外になった場合を中心に）

- ・第63回沖縄県中学校バスケットボール競技大会（沖縄本島→石垣）
- ・第48回九州ジュニアテニス選手権大会（沖縄本島→宮崎）
- ・第13回湘南藤沢カップ全国中学生ビーチバレー大会（沖縄本島→神奈川）
- ・第8回全九州少年少女空手道選手権大会（沖縄本島→長崎）



実行団体への伴走支援としての沖縄式地域円卓会議

社会的インパクトを生み出すための包括的支援プログラム（休眠預金事業・沖縄・離島こどもの派遣基金事業）



円卓会議

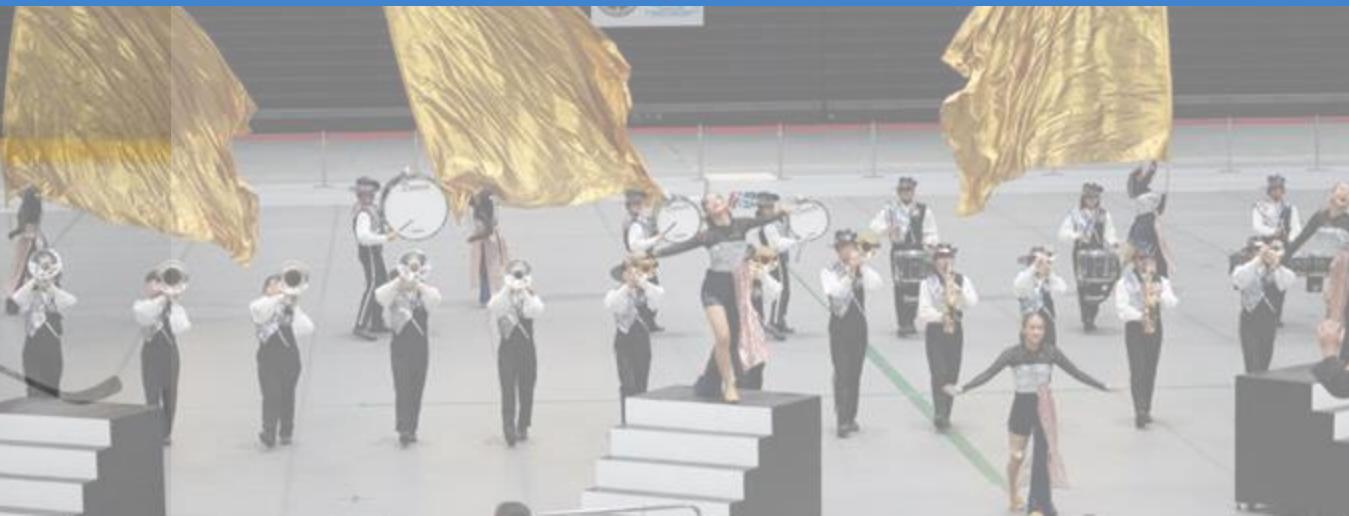
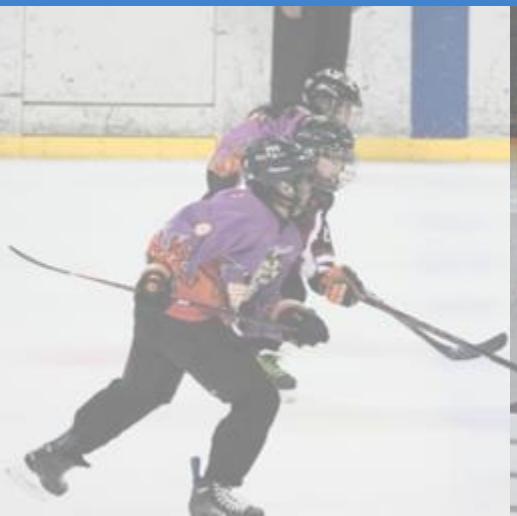
延べ45人の登壇者と 右記のテーマで議論



1	「離島県沖縄において部活動の派遣遠征費用は、どのようにまかなわれ、どんな課題があるのかを確認する」
2	「サッカーに打ち込む子どもたちの晴れ舞台、大会主催者と考える派遣費問題」
3	「子どもの派遣には補助が必要。帯同メンバーのコストをみんなで考える。豊見城編」
4	「行政補助だけでは足りない子どもの派遣費、一体誰がどうやって支えていくべきか？」
5	「豊見城市における部活動派遣費の課題を地域で共有し、商工業者・行政で子どもたちを支えていく体制を考える」
6	「強豪校の派遣費支援って本当に必要？派遣常連校保護者と考える」
7	「島の子どもたちの活躍が地域を元気にする。派遣費に関わる課題をみんなで考える。」
8	「孫離島の子どもたちの移動負担の課題を確認し、支援の方向性を考える。」
9	「多様なステークホルダーで支える部活動派遣費支援。それぞれの役割とは？」
10	「障害者スポーツ大会への選手派遣に関わる課題を通して考える体験保障」
11	「せっかくの晴れ舞台、登録外メンバーも連れていきたい。その意義と課題を確認する。」
12	「不足している部活動の派遣費用、民間寄付・ふるさと納税等多様な支え方を考える。」
13	沖縄・離島の子ども派遣基金事業の取り組みを振り返り、今後の基金のあり方を考える



本事業を通じて見えてきたこと

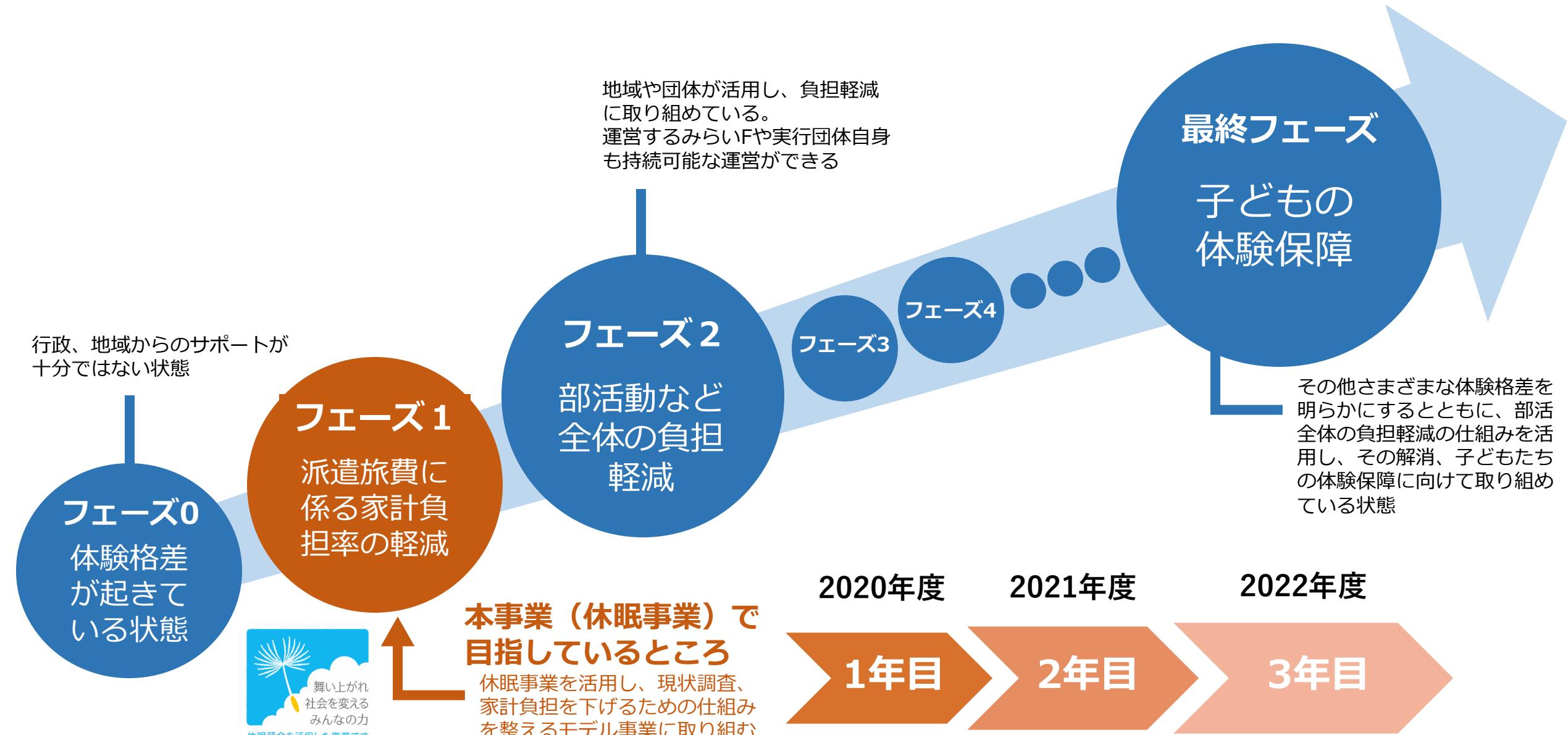


派遣費を巡る7つの問題（円卓会議の議論を経て課題の解像度が上がる）

派遣費

- ① 生活している地域による旅費格差（特に離島、孫離島）
- ② 競技種目による費用負担格差
- ③ 強化活動に参加できず、成長の機会が奪われる（例）強化指定選手に選ばれても参加費が負担。
- ④ 生活している地域による成長の機会格差（例）通える範囲に自分が力を伸ばしたい競技の部活が無い
- ⑤ 障がいを持つ子どもたちの派遣
- ⑥ 子どもの体験の質に関わる帯同者
- ⑦ 短期間で煩雑な旅行手配

「沖縄・離島の子どもも派遣基金」の目指す所



白書の取り組みを振り返って

- 「事業報告書」でなく「白書」で取り組みが継続するイメージ
休眠預金事業の終了は、事業としては一度終結であっても、課題解決の取り組みの出口ではなく、次のスタート。そのためにはステクフルダーが読みたくなるようなものとして、事業取り組みが継続するイメージが大切
- 休眠事業の取り組みだけが課題解決の取り組みではない
取り組む地域課題の取り組み手を実行団体だけに絞り込みすぎず今回採択されなかったり、申請していくなくとも地域課題の担い手であることを意識する
- エビデンスとしてひとり歩き
現時点での白書の取り組むは想定以上に施策や成果に結びついている。アクションリサーチとして取り組み結果がエビデンスとなり、文字化することで一人歩きし問題意識を持っている人達が活用
- 事業終了後は手弁当で活動し連携や働きかけ
事業終了後の活動資金がすぐに調達で切るわけではないので手弁当になり資金不足感はいなめない。せっかくの成果を活用するような支援があるとなおよいな。

調査

資金分配団体調査

1、沖縄41市町村の部活動等派遣費補助実態調査
(2018年度の補助実績を基に)

実行団体調査

2、部活動等派遣費にかかるコスト調査 (サッカーを事例に)

3、各スポーツ協会の派遣に関する実態調査

4、障がい者スポーツの派遣に関する実態調査